

来週の「売り物記事」はこれ



2017年11月17日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

障害者支援に奔走する「車椅子の弁護士」

19日(日)



「車椅子の弁護士」として知られる熊本市の東(ひがし)俊裕さん(64) =写真=は熊本地震で被災し、孤立した障害者たちの支援に奔走しています。障害者差別解消法の制定に関わった内閣府の室長時代には東日本大震災に直面。この時も被災地で障害者が孤立する事態に直面しています。「法律の真価は、被災地でこそ問われるのです」。障害を抱えながら法が描く未来を実現しようとする東さんに迫ります。

筆者は東京社会部八王子支局の野倉恵記者です。



浅草でも、カラオケでも——

懐かしの「昭和歌謡」ブームなぜ？

夕刊特集ワイド 20日(月)



1970～80年代の「昭和歌謡」に再び注目が集まっています。おなじみのヒットソングが次々に繰り出される東京・浅草の公演には「青春」を懐かしむ中高年だけでなく、10代や20代の若者の姿も目立ちます。カラオケボックスで熱唱する女子大生も、昭和歌謡への愛を熱く語ります。平成の世となって、すでに29年。娯楽ならいくらでもあるこの時代に、彼らはなぜあの頃のメロディーや歌詞にひかれるのでしょうか。

クイーンズからマラソンへ

全日本実業団対抗女子駅伝企画

スポーツ面 22日(水)から

「駅伝女王」の座をかけて全日本実業団対抗女子駅伝(クイーンズ駅伝)が26日、宮城県で開かれます。大会に出場する選手たちの中には、2020年東京五輪を見据えて、今シーズン中に初マラソンに挑む選手が少なくありません。大会2連覇を目指す日本郵政グループのホープ・21歳の関根花観(はなみ)、名門ダイハツから1月の大阪国際を目指す松田瑞生(みずき)ら、クイーンズ駅伝からマラソンへの飛翔を目指す選手を紹介します。



医療・介護の報酬改定

医療・福祉面 22日(水)



公的な医療・介護サービスの報酬(値段)が、来年度改定されます。「そもそも報酬ってなに？」から始まり、病気にかかって医療機関を受診したり、介護サービスを利用した際の自己負担にどのような影響があるのかを図解します。

報酬が下がれば、毎月支払う保険料の引き上げを抑制する効果も期待されます。どんなサービスの報酬を引き上げるかチェックすれば、国がどのような医療、介護サービスを目指しているのかも見えてきます。

製造業大手で相次ぐ不正

大丈夫か、日本の「ものづくり」

オピニオン面 【論点】 22日（水）

神戸製鋼所のデータ改ざん問題や、日産自動車とSUBARU（スバル）の無資格検査問題など、製造業大手の不正が相次いで発覚しました。組織ぐるみとも言える不正が長年、横行していた実態が明るみに出て、信用が失墜しています。高い品質で世界から評価されてきた日本の「ものづくり」に何が起きているのでしょうか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



ツイッターでつながる子育て

くらしナビA面 22日（水）



赤ちゃんの夜泣きに悩むママたちが、ツイッターでつながる「夜泣き小屋」が注目を集めています。自分が悪い母親と恐れて、家族や友人に言えないことも、顔も見えないネットなら悩みを本音で相談できる。産後うつが救われたケースもあるそうです。ツイッターで知り合って友人になり、実際に集まることもあるそうです。情報化社会ならの子育てといえます。

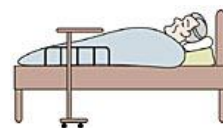
女の気持ちをたずねて



週刊 サラダぼうる

20日（月）

末期がんの夫を自宅でみとった北九州市の女性（68）。一日の大半を看病にあてなければならず、トイレに連れていくためにおんぶしてあげ、抱っこして寝てくれと頼まればそうしてあげました。文句をいわれたこともありました。でも、夫は「こんな幸せの中で死んでいけてありがたいな」と最期に言い残しました。長年寄り添った夫婦の愛の軌跡をたどります。



変革 JR東日本

1、2面 21日（火）から



旧国鉄分割・民営化から30年。JR東日本は年間4000億円規模の利益を出す上場企業になりました。しかし、2011年の東日本大震災後は過疎化する「地方の足」をどう維持するかに苦心しています。首都圏での通勤地獄解消なども課題で、次の30年に向けては人口減少時代の生き残り戦略を求められています。JR東日本の実像に20回の連載で迫ります。